

令和7年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表 令和7年度ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

	調査地点	供試個体数	保毒虫率(%)	前年同時期 保毒虫率(%)
東部地域	加西市別府町	(94)	2.1	(1.1)
	加西市中野町	(94)	0.0	(0.0)
	小野市浄谷町	(94)	0.0	(0.0)
	丹波市山南町	(94)	1.1	(1.6)
	加古川市志方町	(94)	4.3	(0.0)
西部地域	神河町	(61)	0.0	(-)
	姫路市香寺町	(90)	1.1	(0.0)
	宍粟市山崎町	(94)	1.1	(1.4)
	佐用町	(94)	0.0	(7.4)
	上郡町	(94)	0.0	(1.4)
	たつの市新宮町	(94)	0.0	(-)
平 均			0.9	1.4

供試虫: 令和7年5月27～28日に小麦ほ場から採取した幼虫を供試
検定方法: 簡易エライザ法

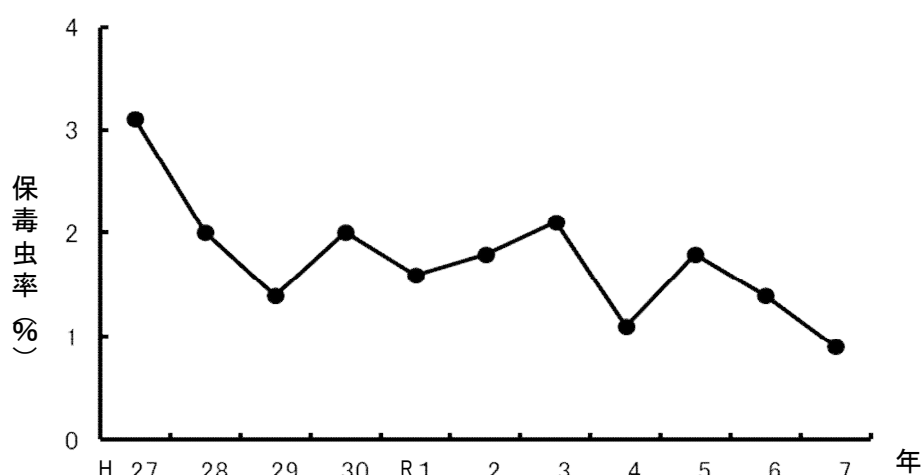


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

第1世代虫の保毒虫率は、平成28年以降、概ね2%程度で推移してきたが、近年低下傾向がみられている(図)。本年は、0.9%となり過去10年間で最も低かった。イネ縞葉枯病多発の目安となる5%を超える地点は見られなかったものの、昨年に比べて保毒虫率が高まった地点もあるため、水田内での発病やヒメトビウンカの発生状況に注意すること。

イネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカは、春季に小麦で増殖した後成虫になって水田へ飛来する。水稻生育初期における発病株は新たなウイルス獲得源になり、保毒虫の増加や出穂期における発病、さらには、保毒虫の越冬により翌年の発病につながる恐れがあるため、できる限り早く抜き取る。特に、育苗箱施用を使用していない場合や、発病株が目立つ場合には、ヒメトビウンカを対象とした本田防除剤を行い、感染拡大を防止することが望ましい。

詳しくは、病害虫防除所webサイト「イネ縞葉枯病防除マニュアル」ならびにYouTube「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」を参照すること。

・「イネ縞葉枯病防除マニュアル」

(<https://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/shimahagare%20Version%201.03.pdf>)



・YouTube「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」

(<https://www.youtube.com/watch?v=yeVWNWSuL8U>)

